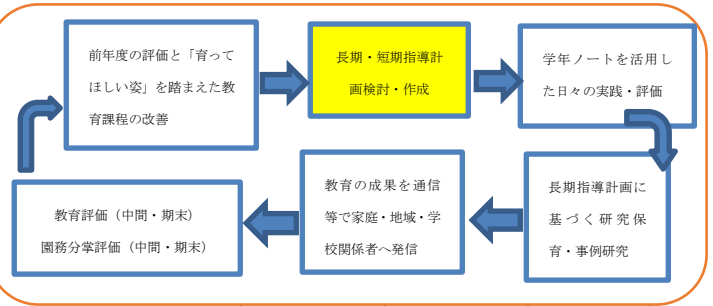


教育課程改善のプロセス ③



平成 30 年度 5 歳児短期指導計画 ほし組 6 月 1
在籍 男 13 名 女 9 名 計 22 名

前週の幼児の姿	育ってほしい10の姿 経験内容の分析・評価
<p>[健康]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲梯や登り棒では、「7までできた」「金のところまで登れた」と自分なりに目標を持ち、それぞれが達成感を味わっている。鉄棒は少しずつ回る感覚に慣れてきており、「逆上がりをやってみたい」という子も増えている。補助板を使ったり、鉄棒の高さを変えたりしながら何度も挑戦してみようとしている。 <p>[人間関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある様々な遊びを試そうとする姿が見られている。今まで関わりが少なかった友達とも、やってみたい遊びを通して関わる姿も見られている。 ・集団遊びの中で、人数比など話し合いが必要な状況になると自分たちで集まり話し合おうとしている。「そっちのチーム、多くてずるいよ」「同じ人数にしよう」など自分の思いを伝えようとしている。 <p>[環境]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育していたおたまじゃくしが大きくなり、水槽が小さくなったことを話題にする。他の学級にも飼育を手伝ってもらおうと話があり、おたまじゃくしについてもう一度クラスで飼い方などを確認した。さらに大切に飼おうという気持ちが大きくなり、登園すると餌の様子を見たり、水を換えたりして世話をする姿が見られる。 <p>[言葉]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、自分なりのイメージをもち、それを実現しようとして友達や教師に思いを伝えようとする姿が見られている。うまく伝わらなかつたり、友達に話し出せなかつたりする姿も見られる。 ・言葉の言い方や、伝え方について「怖い言い方だった」「でも教えようとしたんだよ」とトラブルになる場面がある。遊びを進めるグループの中で言い合える状況を作ることで、自分の思いを出せるようになってきている。 <p>[表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おたまじゃくしの製作を通して、様々な色を混ぜて自分なりの色を作り出す楽しさを味わった。また少しずつ筆で絵の具を取り、筆をきれいに洗いながら使おうとする姿がみられた。筆を立てると細く描けることや筆を横に寝かせて使うと太く描けることに気づいた子が、それを言葉にしたことで、「本当だ」「おもしろい」と試す姿が見られた。 	<p>[健] <u>自分なりの目標に向かって、繰り返し挑戦しようとしている。</u>登り棒や雲梯に目印となるマークや数字を付け直したことで、「ここまで頑張る」という目標が明確になり、その目標に向かって繰り返し挑戦しようという姿が見られている。繰り返し取り組む機会を学級で意図的に持ち、少しずつできたという経験が積み重なってきたことで、自ら挑戦し始めている。</p> <p>[協] <u>同じ場や同じ物に興味がある友達と一緒に遊びを進めていこうとしている。</u>遊びの拠点があることで、その遊びに興味がある友達同士で集まり、関わりが生まれている。</p> <p>[協] <u>友達と同じ目的を持ち、遊びを進めるためにどうしたらいいか考えたり、自分の思いを伝えようとしていたりしている。</u>話し合いが必要になる状況を作り、なんとかして解決しようという思いを引き出してきた指導が、自分なりに考えを巡らせたり、思いを伝えようとしていたりする姿につながっている。</p> <p>[生] <u>身近な動植物へ関心が高まり、自分たちで大切にお世話をしようとしている。</u>おたまじゃくしの変化に合わせてその都度投げかけ、考え合う機会を設けたことで、おたまじゃくしに対する愛着を持ったり、必要感を感じて自ら世話をしようとしていたりする姿につながっている。自分たちで決めたという思いも、積極的に関わろうとする思いにつながっている。</p> <p>[協] <u>自分なりのイメージを友達に伝えようとしている。</u>やってみたくなる環境があることで、自分なりのイメージを持ち、相手に伝えたくなくなっている。またその姿を教師が捉え、友達へつなげていく援助が必要。</p> <p>[言] <u>友達の話聞き、相手の思いに気付いたり、自分の行動を振り返ったりしている。</u>思いを言い合う場面では、その姿を逃さず捉え、その子に応じた支え方をしてきたことで自分なりに伝えようという意欲につながっている。</p> <p>[表] <u>絵の具の混色の面白さを感じ、またそれを生かした自分なりのイメージを表現しようとしている。</u>少しずつ色を足しながら絵の具を混ぜ、色を調整する楽しさを経験してきた。子供たちの気づきを待ち、教師が共感したことが自分なりのイメージを表現する意欲につながっている。</p>